



編集発行
 白鷺教育会
 代表 進藤正洋
 姫路市飾磨区清水2
 (姫路市教育会館内)
 ☎ (079) 233-0892

人生の道標に

読みやすく書かれた『超訳
 ニーチェの言葉』という本の中
 にある」との見出しで、次の
 ような言葉があります。

「人は、そのものから何かを
 汲み出しているのではなく、
 自分の中から汲み出している
 のだ。そのものに触発されて、
 自分の中で応じるものを自分
 で見出しているのだ」

今回、新しいテーマ「心に
 残る『出会い』と『ことば』
 で書いていただいた皆さんの
 原稿には、人生の道しるべ・
 宝となった「出会い」や「こ
 とば」が、豊かな体験として
 述べられています。

それは、子どもの頃に声か
 けされた恩師の言葉であった
 り、職場で出会った上司や先
 達の言葉であったり、めぐり

合った人生の達人であったり、
 静かに佇む仏像であったり、
 一枚のはがきであったり……、
 と様々です。

しかし、これらは筆者の皆
 さんの自分と向き合う真摯な
 態度、打てば響く豊かな感性
 があってこそその出会いである
 と思います。

自ら進んで求め、よりよく
 生きようとする姿勢がなけれ
 ば、どんなに価値ある言葉も
 消え去っていくだけでしょ

う。ここに表されている貴重な
 体験にインスパイアされるも
 のは多くあります。自分の中
 から汲み出された「心に残る
 『出会い』と『ことば』をじっ
 くり味わいながら、今度は自
 分自身の中にそれに応じるも
 のを静かに探したいものだと
 思います。

会報117号 特集

一心に残る出会いとことば

場を与え、その気にさせる言葉かけ	西山佳代子	2
阿修羅と不空罽索観音像	藤末 康男	3
働き者だね!	中尾 幸雄	4
心に残る出会いとことば	美藤 浩	5
脳裡によみがえる原風景	一井 教男	6
させられる仕事を、する仕事に変える	山本 満男	7
人、言葉との出会いが今を作る	飯塚 晃三	8
フォーカス 島にあった二つの学校		9

「退職者交流会」

10月27日



十月二十七日(木) 東井義雄先
 生のふるさと但東町を訪れた。
 東井義雄記念館に着き、東井先
 生の教え子、衣川顕彰会会長と升
 田記念館館長から、教育者・仏法
 者としての七十九年の生涯をお聞
 きました。館内には、膨大な教育実
 践記録・学校通信・著書・蔵書・
 詩集等が展示してあった。ここに
 は、本物の教育を求め続けた先生
 のあしあとが残されている。
 色紙の言葉が心に響いた。

一番は
 もろろん 尊い
 しかし
 一番よりも 尊い
 ビリだってある

次に向かったのは出石町。ここ
 では、名物の出石そばを味わった
 後、美術館に行った。画家の伊藤
 清永、木版画の勝山正則・春子の
 作品を鑑賞した。町中の散策は、
 僅かな時間であったが、城下町の
 風情を感じることもできた。
 充実した秋の一日であった。